

# 平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

## 1. 学校概要

学校名 福岡県立城南高等学校 (※正式名称を記載)

種 別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫<sup>※注1</sup>

中学校  中高一貫<sup>※注2</sup>  高等学校

教員養成大学  専修学校、各種学校

特別支援学校

その他 (例: 小中高一貫 )

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒814-0111

福岡県福岡市城南区茶山6丁目21番地1号

E-mail jonan-h@pref.fukuoka.lg.jp

Website http://jonan.fku.ed.jp/

幼児児童生徒数 男子 558名 女子 638名 合計 1196名

幼児・児童・生徒の年齢 15歳～18歳

## 2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

## 3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

当校は、「持続可能な社会の実現に貢献する科学技術人材育成」をテーマに、ESDを、持続可能な社会の実現に貢献する人材を育成する教育と捉え、ESDの実践を通して生徒高い課題解決能力と協働的に学ぶ能力と態度の育成を目標とした。

具体的には、教科横断的で組織的な教員間・生徒間・教員と生徒の協働による授業改善を柱に、①探求活動・対話型学習活動に係わる活動、②国際理解・国際交流に係わる教育、③世界遺産に係わる学習、④ボランティアに係わる学習を行った。

### ① 探求活動・対話型学習活動に係わる活動

第2学年の「総合的な学習の時間」に、生徒全員が文系理系の垣根を越えて課題研究を行う「ESD課題研究」を実施した。生徒は80班に分かれ、各自が設定した研究テーマについて、1年間課題研究に取り組んだ。9月に中間発表会、3月にポスター発表会を実施、最後に研究レポートをまとめた。

## ② 国際理解・国際交流に係わる教育

7月19日から7月23日まで、国際理解教育の一環として、海外研修を韓国で実施した。選抜された8名の生徒が参加した。釜山、浦項、慶州を訪れ、釜山長安高校訪問、世界遺産の仏国寺等の見学を行った。釜山長安高校では、同校主催の「サイエンスフェスティバル」に参加し、物理部所属生徒が英語でポスター発表を行い、茶道部所属生徒が日本文化紹介を行った。また、釜山長安高校の生徒と一緒に実験に参加し、英語でディベートをするなどの交流を行った。3月の活動報告会で、全校生徒対象に研修内容と成果を報告した。

## ③ 世界遺産に係わる学習

8月2日から8月3日まで、本校 SSH 事業の一環として、鹿児島県屋久島を訪問する「ESDセミナー」を実施した。選抜された生徒10名が参加した。5月から7月に屋久島について事前学習し、研究課題を各自設定。屋久島では、屋久島環境文化研修センターに宿泊し、各自の研究課題に基づき、自然観察やフィールドワークを実施。9月から12月に調査研究のまとめを行い、大学の研究者等の指導・助言を受けて、12月のSSH研究発表会で、全校生徒対象に研究結果と考察をパワーポイント等で発表した。

## ④ ボランティアに係わる学習

6月7日の城南高校文化祭で、ボランティア活動の一環として、生徒会組織である「SSHユネスコ委員会」主催でチャリティ・バザーを実施した。生徒・教職員の家庭で不要になった文具や日用品を回収し販売した。地域住民の方々や生徒の家族、他校の生徒などが多く来場し、チャリティに協力してくれた。



① ESD 課題研究ポスター発表会



② 韓国研修：釜山長安高校訪問



③ ESDセミナー：屋久島



④ チャリティ・バザー

## (2) 活動の詳細

### ① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

#### ア. 活動分野 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 環境	<input checked="" type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他( )		

#### イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入 )	

#### ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input checked="" type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 )	

#### エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

教材は、各活動の担当教員及び参加生徒がそれぞれ作成・参照しており、多岐にわたり、具体的に把握が困難である。

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

本校は今年度がスーパーサイエンスハイスクール8年目である。昨年度から「持続可能性の実現」という共通の理念に基づいて、スーパーサイエンスハイスクール事業の一部にESDを冠してきた。「ESD課題研究」は第2学年の「総合的な学習の時間」で実施しており、本校校務分掌にあるSSH部と第2学年担当教員とで協力し、年度当初に年間指導計画を策定し、実施している。また、独自のルーブリック（評価基準）を作成し、生徒の研究発表を評価している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各活動は校内に組織を作り運営している。「ESD課題研究」はSSH部と第2学年、「ESDセミナー」はSSH部、「韓国研修」は国際交流活動を企画・担当するGC委員会、「ボランティア活動」は生徒会組織であるSSHユネスコ委員会で実施している。「ESD課題研究」では、第2学年で実施中から第1学年へも情報提供をし、翌年度の活動がよりスムーズに行くような工夫が行われている。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5

SSH事業と関連づけているため、「ESD課題研究」と「ESDセミナー」はSSH部と担当学年で活動の評価と反省を行っているほか、SSH運営指導委員会で大学教員等からも評価をいただきながら実施している。運営指導委員会は年間3回実施している。「ESD課題研究」はよりESDとの関連を強くするため、今年度第1学年生徒にSDGsポスターを提示し、来年度の課題は17のテーマに沿うように指導を始めている。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果・(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

ESDの活動はSSH事業と一部関連させているため、その活動成果を校内で発表する際に運営指導委員の大学教員等や生徒の保護者、近隣の中学校生徒を招いて参観してもらっている。また、本校ウェブサイトでも一部紹介している。ユネスコスクールとしての本校の知名度は必ずしも高くないため、今後は活動成果の発進をさらに進める必要がある。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など）  
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

ESDの活動はSSH事業と一部関連させているため、SSH事業を通して地域の等との連携・交流は行っているが、ユネスコスクールを前面に押し出した形にはなっていない。ESD課題研究に関連して、今後ESD関連の大学や団体との連携・交流を模索していくことも可能であると思われる。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度） ※チェック事項 2-4 に対応

今年度は特定のユネスコスクールとの交流等は実施していない。来年度からSDGsに基づいたESD課題研究を推進していき、情報発信をしていくなかで、新たに国内外のユネスコスクールとの交流が実施できる可能性はあると思われる。国際交流の観点から、他国のユネスコスクールとの連携も模索していくことができると考えている。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）  
※チェック事項 2-5 に対応

本校がユネスコスクールであることと直接の関連があるかどうかは検証していないが、環境問題や国際問題、持続可能性について高い意識を持つ生徒は増えてきているようだ。今後は、スーパーサイエンススクール事業とユネスコスクールの活動の関連性をより明確にして校内外に発信していくことが必要であると考えられる。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

「ESD 課題研究」は、テーマ設定をSDGsにより関連した形で実施していく予定である。「ESD セミナー」も世界遺産の屋久島で継続して実施する予定である。「韓国研修」も今年度同様の日程・計画で実施する予定である。「ボランティア活動」はチャリティ・バザーの継続とともに、生徒主体で他の活動も企画・運営できるようにしていきたい。来年度は、ESD 課題研究と絡めたESD コンソーシアムや国内のほかのユネスコスクールとの連携・交流を模索したい。また、国際交流の観点から、他国のユネスコスクールとの交流の可能性を探りたい。